

## スポーツ復興について

問 高齢化が進む中、生活習慣病や健康づくりのためにも、小涯スポーツの重要性は年々高まってきている。また、年齢差に関係なく誰もができるスポーツの種類も増えてはきているが、本市のスポーツ施設、運動する場所等が少ないと聞く。そこで、スポーツ振興計画に基づき整備状況を伺う。また、特に市内でスポーツ施設が不足している北東部地域の県立市川北高の統廃合後のグラウンド・体育館等の跡地利用について問う。

答 市川市スポーツ振興計画のひとつに「スポーツをする空間・場所の確保、充実」としている。平成22年度は国体開催を控えており、施設の老朽化したスポーツ施設を整備して行きたい。また、新たな整備の一つに国分川調節池上部利用計画でスポーツ広場の設置を計画している。北東部周辺のスポーツ施設の減少により構想の再検討が必要であり、そこで、県立市川北高跡地は魅力的なスポーツ施設でもあり有効活用できるものとして期待している。

\* 県立市川北高校

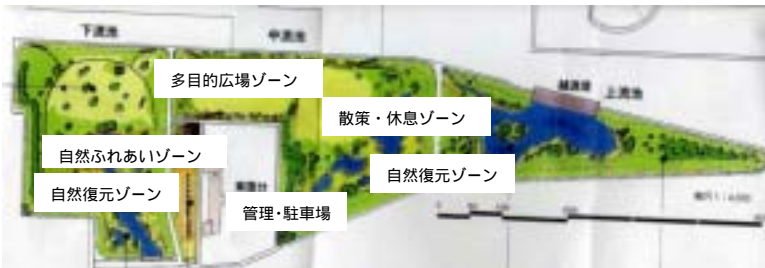


## 治水対策について

問 真間川流域の総合治水対策事業で、面積が24haの広さがあり、平成6年より整備している。また、平常時における調節池の上部有効利用に向け、平成13年度より地元自治会、学識経験者などで整備方針について検討し、上部を5つのゾーンに分けた基本計画を策定した。更に新たに公募した市民による国分川調節池を育む会で、再度検討がされていると聴いているが、上部利用計画に変更があったか状況を問う。

答 本市の広大で貴重な空間でもあり、国分川調節池の上部利用整備方針については、国分川調節池を考える会・育む会準備会、そして、国分川調節池を育む会と変遷をしてきましたが、各ゾーンの設定での変わった部分は、多目的ゾーンをサッカーや野球などの利用を可能とするため更に1ha拡大している。また、一部ゾーンに問題があるとの事で、形状変更しているが各ゾーンについては大きくは変わってはいない。

\* 国分川調節池イメージ図



## 21年度予算

# 一般会計 5%減 1,176 億円

新年度予算は、8年続いていたプラス予算から、マイナス予算となりました。一般会計予算、平成20年度1,238億円、平成21年度1,170億円で特別会計、企業会計を含めた予算総額も減額となり1,901億8千8百万円で前年比11.3%の減額予算となりましたが、主な要因は広尾防災公園の用地購入の終了、市川駅南口開発事業の終了などによるものであり本年も堅実編成予算となっております。

## 定額給付金について

= 支給は5月中旬から =

住民への生活支援を目的とし、あわせて住民に広く給付することにより、地域の経済対策の一環として支給される定額給付金が、いよいよ4月13日に申請書類が発送されます。その後郵送で申請を受付け審査等を行い、支給は5月中旬を予定している。本市は22万世帯が対象で、手続き処理1日1万件、約7週間程かかる予定。支給額は約68億9千6百万円、内訳は2月1日で住民登録された方で、65歳以上2万円受給者75,500人、18歳以下77,000人。加算のない12,000円受給者は320,500人となっております。